

県民の森 植物紹介 ④7 ヤマハンノキ (カバノキ科ハンノキ属)

河畔などの水辺を好む落葉高木です。湿地や痩せ地などの条件の悪い場所でもよく生育します。ハンノキの根には、独特な菌類が共生していて、大気中の窒素を取り込んで根に根粒(こんりゅう)を形成します。この根粒に窒素が貯めこまれて自前で土地改良することが出来るのです。そのため「肥料木」という名でも呼ばれ、砂防などで利用されています。

花は、まだ雪景色の3月初旬ごろ、いち早く咲きます。雄花は長い穂状で垂れ下がります。枝先についているマッチ棒の頭のようなものが雌花です。スギと同様、風で花粉を飛ばし花粉症の原因となっていますが、他の木がまだ芽吹き準備をしている頃に、この木だけが花を咲かせている様子は、遠くから見るとふんわりと赤茶色に見えてとても美しいです。

秋に熟す、小さな松ぼっくりのようなかわいい黒い実は、冬になってもなかなか落ちず、一年中見ることが出来ます。園内を散策すると必ず拾える実のひとつで、クラフト材料としても人気があります。

園内各所で見られますが、森の大橋からは、松川の河畔に生える高木の上部がちょうど手が届くくらいの位置にあるので、じっくりと観察することが出来ます。



森の大橋のヤマハンノキ 2021年3月18日



冬芽 2020年11月14日



花 2021年3月18日



花 2021年3月21日



芽吹き 2020年5月4日



若い実 2020年10月6日



熟した実 2020年10月21日